

水田の有効利用を図るためホールクroppサイレージ用稲の導入に取り組んでいます

石川農林総合事務所農業振興部



写真1 専用収穫期による収穫の様子



写真2 ラッピングされたWCS用稲

白山市では、水田の有効利用と、耕畜連携による地域農業資源の循環を推進するために、牛や豚などのえさであるホールクroppサイレージ（WCS：稲を発酵させて栄養価を高めた、いわば稲の漬物）用稲の導入を検討しています。

WCS用稲は、近年、転作作物の1つとして注目を集めており、管内畜産農家の需要が期待できる上、水稻農家の技術を生かすことができます。

このことから、当事務所では、WCS用稲の栽培普及に向けて、石川県立大学と共同で、今年度から3カ年にわたり栽培から収穫、給与までの実証に取り組むこととしています。

今年度は、4戸の農家が「夢あおば」「北陸193号」等の専用品種を4.2ha作付けしました。当事務所では、初めてWCS用稲の栽培に取り組む農家に対して、品種特性や施肥、病虫害の防除等の栽培管理のポイントを十分に指導するとともに、これを利用する畜産農家へもえさとしての特徴等について説明しました。

また、8月25日には、現地ほ場で「WCS用稲の普及に向けた収穫実演会」を開催しました。炎天下の中、水稻・畜産農家、JA、行政関係者など60名が参加し、細かく均一に混合されたロール（写真1）や、刈り取りからラッピング（写真2）までの作業状況を確認しました。

今後は、水稻農家と畜産農家の連携強化や、収穫作業請負組織の育成を通じて、WCS用稲の作付拡大を目指します。

問い合わせ先：石川農林総合事務所農業振興部（076-276-0371）